



Higher accumulation of docosahexaenoic acid in the vermilion of the human lip than in the skin

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2021-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Mamun, Md. Al メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003910

論文審査の結果の要旨

唇はヒトの体のなかでは独特の位置付けにある。表情の中核をなし、性的な意味でも社会的意味でも重要な器官である。組織解剖学的にも表皮がうすく付属腺がないという特徴があり、外界からの刺激の影響もうけやすい。研究対象としては、ヒト検体を扱う機会は少なく意外に基礎的知見が少ない。申請者は、口唇裂手術時に生じる残余検体を用い、質量顕微鏡によって主として脂肪酸の局在を明らかにした。3例の口唇部と周辺皮膚を含む検体においてパルミチン酸、リノレイン酸、オレイン酸、アラキドン酸、ドコサヘキサエン酸（DHA）の脂質を同定することができた。興味深いことに、不飽和脂肪酸である DHA が口唇の表皮部に多く存在することを初めて明らかにした。その他の 3 つの脂肪酸の分布とは異なる特徴的な事象であり、口唇の種々の機能、外界からの刺激感受性、Aging、Cosmetics、chewing tobacco による口腔がんの carcinogenesis などに関わる可能性のある基礎的新知見である。なお本研究は浜松医科大学倫理委員会（18-153）及び新潟大学倫理委員会（2015-5018）の承認を受けて実施されている。申請者は DHA が口唇表皮部のミトコンドリアにおける酸化的 DNA 障害について防御的役割をしているのではないかという説を提唱した。組織解剖学、皮膚科学、病理学的な視点からの多くの疑問についても、申請者は的確に回答した。審査委員会では、本研究は 1 分野を切り開く可能性のある端緒としての重要な仕事であると全員一致で高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	梶村 春彦	副査	佐藤 康二	副査	本田 哲也
---------	----	-------	----	-------	----	-------